半壊の学校で授業が行われていた

ガザ 侵攻から１年＋封鎖から３年

侵攻から１年。パレスチナ子どものキャンペーンでは、2009年12月から2010年１月まで、事務局の中村哲也を派遣して１年たったガザの様子を調べるとともに、支援を継続中です。

封鎖で進まぬ復興

町の様子は昨年夏とあまり変わらず、瓦礫の撤去さえほとんど進んでいません。手作業による除去は時間ばかりかかるからです。瓦礫を砕いて少量のセメントと混ぜて日に干した「ブロック」作りも盛んです。瓦礫から鉄筋を取り出して伸ばして、再利用することも普通になりました。封鎖によって建設資材はほとんど入らず、廃材利用のニーズは高いのです。

働く子どもたち

廃材利用を支えているのが、子どもたちによる回収です。プラスチックや金属を回収して、業者に売り、生活費を稼ぐ子どもたちが増えています。学校に行かずに働いている子も見かけるようになってきました。（子どもたちの様子は５ページに）

戦争再来におびえる

昨年の戦争の恐怖は人々に染み付いていて、多くの人がまた戦争が起こるのではと不安に駆られています。限定的な空爆や海上での漁船への威嚇など、イスラエル軍の行動は続いているからです。またイスラエルとハマスの間の強い緊張関係は続いています。ガザのハマス政府とヨルダン川西岸の自治政府の間の和解に向けた交渉も暗礁に乗り上げています。

8割の人が援助に頼る

戦争による破壊に加えて、封鎖によってガザの経済は麻痺しています。その結果、マーケットに品物があるときでさえ、買えない人が大多数です。市場がにぎわうのは、公務員の給与が出たときだけといわれます。

封鎖を解除して一日も早く復興が始められるよう、イスラエル政府をはじめ各国政府への働きかけが緊要です。

ガザ破壊と封鎖：数字で見る損害の概要

破壊

1 対 100

'08年12月～'09年１月の犠牲者数
イスラエル：13人（3人が民間人）
ガザ：1,393人（1/3が子ども）

60万トン

破壊によるガザの瓦礫の量
撤去されたのは３分の１以下

3,500棟 建て替えが必要な民家

2,800棟 大規模修復が必要な民家

5万棟 部分的修理が必要な民家

650億～900億円

侵攻による推定損失額
84%が家屋、農業、経済分野に集中

4,000億円

国際会議で約束された復興支援金額（ヨルダン川西岸地区含む）
しかし復興支援は始まっていない

10万人

家屋破壊の影響を受けた人々
全人口の７%以上

2万人

まだ仮住まいをしている人々

150万人

ガザの人口

18校

破壊され、使えなくなった学校の数

20時間

１日の停電時間

封鎖

7,400台（'06）と**4台**（'09）

建築資材を積んでイスラエルからガザに入ったトラックの月間台数

400品目（'06）と**35品目**（現在）

イスラエルからガザへの輸入品目
現在は基本的な食料と医薬品に限定

ほとんどすべて

許可されない建設資材は木材、鉄、塗料、建具、ビニールパイプ、鉄パイプ、電柱、アスファルト、補強用棒、砂利、発電機、高圧電線など

5分の1

食料を積んでイスラエルからガザに入ったトラックの１日の台数は'07年の５分の１に

生活

80%

援助物資に頼る住民の割合

14万人

失業者数
労働人口の40%

100円

人口の７割の世帯が貧困ライン
(1日100円以下)で生活する

15%

トラウマを持つ人の割合

50%

15歳以下の人口の割合
（人口の半数以上は子ども）

産業

700か所

侵攻で破壊された工場と商業施設の数

29か所

破壊されたコンクリート工場、セメントプラントの数

139億円

侵攻による産業の直接的な損失

農業

17%

侵攻によって破壊された農地の割合

50%

農業生産は封鎖前の半分以下に

幅300 m～600 m

イスラエル国境沿いで立ち入り禁止にされている耕作地
全耕作地の20%以上

ゼロ

ガザ産の農産物の輸出